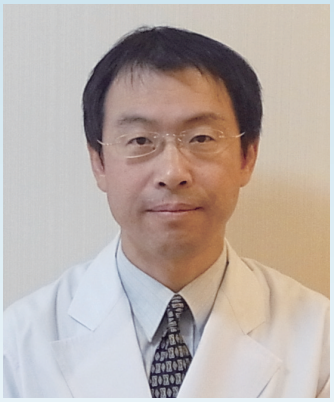
羅針盤



川端 康浩
Yasuhiro Kawabata
川端皮膚科クリニック

美容皮膚科って何だろう？

私が開業した20年前に比べると，昨今の美容皮膚科の興隆には目を見張るものがあります．当時はまだ“美容”というと何となく胡散臭いというか，「まっとうな医師が行うものではない」といった偏見が少なからず残っていたと記憶しています．私自身は開業するにあたって「せっかく開業するのだから，勤務医時代にはできなかった分野にも挑戦してみたい」という気持ちで，通常の皮膚科診療以外にも在宅医療や学校保健に関わるなど，色々なことに手を染めてきました．そのうちの一つが美容皮膚科というだけであって，私のクリニックも美容皮膚科に特化してはいませんし，私も自身を美容皮膚科医とは思っていません．そんな私があらためて「美容皮膚科って何だろう？」と考えてみました．

近ごろは美容皮膚科を標榜するクリニックの医師は必ずしも皮膚科医ではなく，内科医，形成外科医，産婦人科医，麻酔科医と多岐にわたっています．私はあえてこれを悪しとは申しません．例えば，産婦人科の先生は女性特有の多くの悩みごとに真摯に寄り添い，その一環として美容皮膚科を行っています．患者の立場になれば，「いつも自分の身体や心の悩みについて相談に乗ってくれている先生が，美容に関することまで対応してくださる」というのは，ある意味理想の環境でしょう．そんな密接な信頼関係ができあがっているところに「美容皮膚科は皮膚科専門医しか行ってはいけない」などと口をはさむのは少し無粋かもしれません．一方で，「美容皮膚科の対象は健常な皮膚であるから，病的な皮膚を対象とする皮膚科学を極めていなくてもよいのだ」とのたまう人がいます．しかし，これには賛同できかねます．美容皮膚科といえども，皮膚を対象とするからには，皮膚科学の研鑽は不可欠です．皮膚科医としては，専門医としての矜持をもって，皮膚科学をベースにした美容皮膚科の優越性を証明しなければならないと思っています．「皮膚疾患のスペシャリストである皮膚科医による，皮膚科学に立脚した美容皮膚科の意義とその重要性を強調したい」――そんな思いで，今回の特集号では「『皮膚科』にこだわる美容皮膚科」と銘打って，「皮膚科だからこそ」というテーマで，皮膚科の立場から美容皮膚科の主要分野について気鋭の皮膚科専門医に解説していただきました．

どうしても自由診療の美容皮膚科というと収益のために行うというイメージがつきまといます．むろん，それを全否定することはできませんが，決してそれだけではないと思います．美容皮膚科には「患者から医療界への要望があり，皮膚科医を中心とした美容皮膚科に関する専門知識をもった医師が対応することが適切な医療行為」という側面が確実に存在します．美容皮膚科においても，患者と治った（きれいになった，若返った気がしてきた）喜びを共有することを忘れずにいたいと思います．そして，この気持ちに美容皮膚科も一般皮膚科も変わりはないというのが私の信条です．